

平成30年度第7回まちづくり懇談会

「塚田地区連合自治会」

1. 日 時：平成30年11月12日（月） 午後1時30分～
2. 場 所： 9階第2応接室
3. 次 第
 - (1) 出席者自己紹介
 - (2) 市長挨拶
 - (3) 団体紹介
 - (4) 懇談
 - (5) 集合写真
4. テーマ： 塚田地区のまちづくり

【議題】

- ① AGCテクノグラス跡地開発に伴うまちづくり
- ② 生産緑地（含む休耕地） & 旧日本建鉄跡地について

○団体

昨年に引き続き、塚田地区連合自治会とのまちづくり懇談会でございますけれど、現在、塚田地区は歴史的に見ても人口流入がとまらない中で、いろいろなまちづくりの課題が毎年増えているという状況ですので、よろしくお願ひしたいと思います。

○市長

今日はお越しいただきましてありがとうございます。

昨年に引き続いての懇談会ということでよろしくお願ひいたします。

ご承知のとおり、船橋市にはいろいろな特性を持つ地域があり、課題もそれぞれ異なっています。そういった中で、市として各地域の課題をどういう順番で解決していくかということが、難しい問題になっています。ただ、こうして実際に生の声を聞かせいただくことが一番ですので、出来る事、出来ない事が

ありますが、ご意見等を伺った上で、解決に向けて取り組んでいきたいと思
います。

○団体

1 番目のテーマは、AGCテクノグラス跡地開発に伴うまちづくりです。

ここは861世帯が入居の予定で30%が賃貸です。賃貸の方々の町会・自治会への加入率は非常に少なく、塚田地区には13のマンションがありますが、約2,000世帯が町会自治会に未加入というのが現状です。今後、大幅な人口増加が見込まれる中、AGCテクノグラスも賃貸世帯が多いことから、自治会の結成も困難であると考えており、ますます住民同士のふれあいが疎遠になってしまうのではないかと懸念しています。

先日、地域を全部回り、アパートやマンションの部屋の数をチェックしました。私の住む町会は1,450所帯ぐらいありますが、1,000所帯程度は賃貸のマンションとアパートで、そのうち町会に入っているのは約3割程度でした。何とかコミュニティーをうまくやっていけるように、例えば、住民登録されるときに窓口で加入を促すなど、市のほうからもいろいろと支援していただければと思います。

○市長

町会自治会の加入率が全国的に減ってきている中、船橋は他の自治体と比べると高いほうになります。しかし、住んでいる方にとっては比較の問題ではありませんし、防災や福祉の面でも町会・自治会に担っていただいている役割は非常に大きいので、市としても加入率は上げたいと思っています。

今、町会・自治会は任意団体ではありますが、転入手続きをされる際に窓口で市民便利帳などと一緒に、船橋市自治会連合協議会が作成した町会・自治会加入を促すパンフレットを配布しています。

開発の担当事業者とはどういう話をされていますか。

○団体

事業者には「まちを地域と一緒につくりましょう」と再三再四、話をしていますし、都市計画課からもお話していると思いますが、進展していません。商業ゾーンについては参入業者もまだ未定です。

まちづくりの基幹となるのは、人が集う枠組みがきちんとできることだと思います。事業者には、日曜日に歩行者天国や大道芸人が集まるような仕組みを新しい道路計画の中に展開してもらいたいという提案をしています。

○市長

人が集う場所があると繋がりも広がります。

新船橋駅周辺に開発された森のシティは、すぐに自治会を結成されたと思いますが、塚田地区連合自治会には入っているのですか？

○団体

入っていますがマンションが5街区、戸建てが42戸あり、そこで一つの自治会になっています。そのため、もう5年目になりますが、大世帯であることから、会員同士のつながりが見えてきません。先日の敬老会でも隣同士になった人たちは、隣が誰だかわからないという状態でした。役員も若い人がやっていますので、森のシティ自治会全体が集まるというようなことはほとんど無いそうです。AGC跡地計画が第2の森のシティになるのではないかと懸念しています。

○市長

市としても、特効薬はなかなか見つからないのですが、ただ、担当課と事業者には改めて話をさせていただきます。また年に1、2回、森のシティの自治会の若い方々と会う機会がありますので、地域とのつながりについて話をさせてもらいたいと思います。

賃貸の建物で建物として会員になっているところはありますか。

○団体

行田町会では、ここ1、2年で100所帯ぐらいの新しいアパートができ、管理会社経由で大家に町会に入っていたきたいと打診をしたところ、大家から「ぜひ、入りましょう」と言って管理会社経由で町会費を徴収している取り組みがあります。最初から大家がわかっていたら、アクションを起こせますので、意外と入ってくれやすいです。

○市長

私の知り合いも町会に加入しようとしたところ、既にマンションで加入しているからと言われたそうです。町会・自治会に加入していると町会・自治会や市からのお知らせを入れてもらえるのでよいことだと思います。

○団体

町会・自治会に加入していると、アパートの掲示板にお知らせを掲示することができるんです。

○市長

自治振興課でもかなり懸念してしまして、転入してきた時にパンフレットなどを渡したり、新築物件の建設主や開発業者に協力を依頼したりしています。その後は子どもたちの入園、入学等の機会を捉え、町会の存在を意識してもらうような形がいいのかもしれないね。

○団体

そうすると、いわゆる学区と絡んできます。今回の（仮称）塚田第二小学校は、北本町1丁目と2丁目のほとんどが入学しますが、北本町2丁目地区は5つの小学校を選択できるようになっています。選択があるということは、隣同士が別々の学校になるということもあります。そういう意味ではつながりは全く見えなくなることもあり、東武アーバンパークライン沿いのマンションは自治会結成までいかないのです。もともとつながりがいいわけですから、必要性も感じないということになります。船橋総合病院の北側にライオンズガーデンという180世帯のマンションがありますが、ここも5つの小学校に行けます

ので、同じように自治会結成すらできません。管理人には何回も町会をつくったらと打診していますが難しいです。未結成のマンションは、5年も10年たってくるとそういう文化に慣れてきますので、今さら自治会をつくるという考えはないのです。船橋は24地区コミュニティーありますが、5つの小学校から選択できるというのは多分塚田地区だけでしょう。

○市長

選択学区はいくつかあります。地図で見ていただくとわかりやすいのですが、小学校がものすごく近距離に点在していますので、学区の決め方が非常に難しいエリアです。

学区の区割りにについては、一方は増築しなきゃいけない、また一方は今後の都市計画によるところがあるというように、昔の状況と違うので市もかなり問題意識を持っています。これからもやりとりをさせていただき、お手伝いできることはして、事業者のほうには担当を含めて改めて話をさせていただきます。

○団体

次に生産緑地、旧日本建鉄跡地についてですが、塚田地区の社会的基盤が公民館しかありませんので、老人福祉センター並びに第2公民館等々、人々が集えるような施設を、国や県からの誘致も含めて考えていただきたいと思っています。

また地区では人口増加も進み、30代、40代の若い人がどんどん増えてきています。2022年には休耕地が宅地造成されてくると思いますので、行政施設で何か老人センターのようなものをつくっていただきたいと思っています。

もう一つ、船橋は音楽のまちと言われているという話ですので、音楽のまち船橋に見合う音響効果のすばらしい施設をつくって頂ければと思います。多くの学校が全国レベルの力を持っているので、そういう施設があれば技術も上がるのではないかと思います。

○市長

まず、生産緑地の話から。旭小学校の辺りはキャベツ、西船のほうは枝豆や小松菜などを作っている生産緑地が多く、施設面積は狭いですが、非常に工夫してやっており、船橋の農業はとても優れています。船橋の農業後継者は減ってきていますが、東葛地域では一番多く、やる気のある若手も非常に多い中で、生産緑地で一番懸念されるのは相続問題です。当然、相続税が高いので、手放さざるを得ないという可能性はありますが、今年、生産緑地を持つ方たちに「今後どういう考えでいますか」という調査をし、その結果を踏まえて市としての農業振興計画を作っているの、なるべく都市農業として生き残れるように、いろいろと手を打っていきたいと思っています。

それと、建鉄の跡地ですが、市独自に公共施設を入れるというのは、財源的にも体力的にも厳しい状況にあります。

また、高齢者の施設ですが、今、市の計画として老人福祉センターは5つのコミュニティーに1つずつ整備をしています。塚田地区よりも全然遠いところから、老人福祉センターまで行っている人たちがいっぱいいます。

実は塚田地区はすごく便利なところで、中央にも西にも行けるという場所です。逆に言うと、ここに老人福祉施設をつくるというのは厳しいです。公民館も26館ありますが、まだまだ遠いエリアの人たちもいるので、その状況を見ると塚田地区は公共施設的には結構、恵まれているところです。ただ、音楽ホールについては、ここにつくるかどうかは別にして、必要なことは重々感じています。

○団体

そうですね。

○市長

毎年、船橋の子たちが全国のいろいろな部門で日本一になっていて、そうした経験を持った子たちが今、学校の先生になって戻ってきてくれています。状況は十分わかっていますので、何とかしたいと思っています。

旧日本建鉄跡地については、企画財政部で今後どうするかのやりとりをしていますので、塚田地区連として、何かこんなものがあつたらというものを市に

あげていただけたらと思います。本当に無造作にやられてしまうと、まちづくりに大きな影響があることは明らかなので、しっかりやらせていただきたいと思っています。

○団体

学校関連が出たところで、（仮称）塚田第二小学校の学区についてですが、現在、塚田小の児童数は1,099名で、船橋市内で5番目に多い学校になっています。戸建やマンションが建つたびに急激に児童数が増加し、どんどん塚田小の特別教室が普通の教室に転化されており、もうこれ以上児童数が増えますと教室が足りない状態になります。

2021年に（仮称）塚田第二小ができますが、現在の塚田小の生徒だけが一クラスの人数を増やしてぎゅうぎゅう詰めにならないように、新しい小学校に劣らない教育の質や学習環境を提供していただきたいと思っております。その格差のない教育の実現を希望して、その将来へのご意見をお伺いしたいと思っています。

○市長

児童数が増加している状況についての対応を教育委員会と考えています。しかし、これ以上校舎を建てるわけにもいかない中で、学区を調整しなければ、生徒数に対して学校の教室をやりくりできる状況ではありません。なかなか良い区割りができないので、教育委員会に改めて話をしたいと思っています。

また、教育の質の問題ですが、電子黒板はかなり入れており、英語教育は1年生から外国の補助教員を入れて授業をしています。歴代の市長が力を入れてやってきましたので、一定のところよりは絶対にいいとは思っています。しかし、非常に変化が激しいこともあるので、子供たちのためにいいものを揃えていきたいと思っています。

○団体

ぜひお願いします。

○市長

千葉工業大学と包括協定※を提携し、大学側から学生が卒業までの4年間使用したタブレット端末500台の寄贈を受け、それを用いた授業を今年初めて行いました。あとは千葉工大の学生たちに、今度一緒にプログラミングをやっていこうという話をしていますので、各学校、地域ごとにやっていきたいと思っています。

※「船橋市と学校法人千葉工業大学との包括的な連携に関する協定」

本市と千葉工業大学とは、これまでも学習サポーター派遣事業による小学校への大学生の受け入れや、市立船橋高等学校生徒の大学講座への聴講生受け入れ、市内イベントへの学生ボランティアの協力など、相互に連携を図っている。今後も、より広範的かつ強固に連携を図っていくために、平成30年7月17日に包括連携協定を締結。

○団体

次は、道路問題についてですが、塚田駅の西口から諏訪神社方面に抜ける道を、私どもでは「危険な銀座通り」と呼んでいます。事業者による道路工事が進展しつつありますが、非常に狭い道で、すれ違いも困難です。人口の増加に伴い、車両も増加しています。途中何カ所か緩衝地がありますが、逆にそれがあるために、通過後慌てて車両がスピードをだして進むことになり、危険な状況をつくっています。

新しく住民になった方たちは、どこで止まって、どこでかわすというのわからず、お互いが突っ込んでしまい、どちらかがバックし、その車を歩行者が壁に寄って避けるなどしています。塚田地区全体的にこうしたかなり狭い道路がありますので、ぜひこのAGCテクノグラスの開発とともに、道路についても行政のお考えをお聞かせいただきたいと思います。

○市長

確かにおっしゃる通り、緩衝地が危険な状況をつくってしまう可能性もありますが、市として今できること、ということで考えると逆に緩衝地にできると

ころを増やしていくしかないと思っています。道路のネットワークがあれば、一方通行の道も考えられますが、諏訪神社のところまでかなりの距離がありますので、全部一方通行にするとなると沿線に住んでいる人たちの理解はとて得られません。

○団体

そうですね。それは認められないですね。

○市長

去年と同じような回答で大変申し訳ないのですが、今は緩衝地として売ってもらえるところを可能な限り交渉して増やしていこうと思っています。

何かこうしてくれるといいという提案はありますか。

○団体

それが次のゾーン30※の話につながります。

今後、塚田地区も新しい小学校ができ、市の長期計画にありました森のシティの子供たちの通学路が変わってきます。私どもも急に来年からゾーン30やるからと言われても、地域の皆様にご理解をいただくことはできません。ある程度、2、3年のスパンでやりたいと思います。

※「ゾーン30」

警察庁から出された施策で、生活道路における歩行者等の安全な通行を確保することを目的として、区域（ゾーン）を定めて速度30キロの速度規制の実施と、交差点カラー舗装等を必要に応じて組み合わせ、ゾーン内の速度抑制や抜け道として通行する行為の抑制等を図る安全対策。

○市長

ゾーン30ですが、確認したところ、当初の計画よりも船橋はかなり前倒しで多くやっけていまして、25カ所ぐらいになりました。

○団体

東部地域のほうが多いです。

○市長

市としては、道路はすぐに直せないところが多いので、カラー舗装や標識灯などが無言のプレッシャーになって運転している人が気づきやすいなど、やはりゾーン30は一定の効果は出していると感じます。

○団体

塚田地区連合自治会の会長会議で、塚田、塚田第二、行田東、行田西、4つの小学校の周辺を全てゾーン30にするということで決定しましたので、積極的に行政と進めていきたいと思っています。

○市長

わかりました。

○団体

塚田地区は道路が狭隘なため、子供たちにとって危ないところがいっぱいあります。スクールゾーンの標示も全部消えて見えないところもあり、例えば、行田西小学校は、正門を出て左右の道路のスクールゾーンを標示する緑色の塗装が消えており、普通のアスファルトに見えてしまっているので、何とか緑色の標示の復活をお願いしたいと思っています。

また、総括的な意味で、塚田地区の歴史的背景が今日のまちづくりのテーマになっているのだらうと思います。最初に新船橋の山手工業地帯、次に開発されたのが実は馬込沢です。塚田の周辺は、駅はありましたが周りは田畑しかなく、かつては公民館もありませんでした。相続の話がありましたけれど、そこが全部宅地になり、駅にもロータリーがないというのが現実です。そういう歴史的背景があって、道路が狭隘にならざるを得なかったのかと思います。現在は前貝塚町と旭町は戸建てが建ち並び、買い物するところが1つありません。そういう意味でも、今回のAGCテクノグラスの商業ゾーンにまちづくりの一

翼を担ってもらいたいという気持ちが強く、市から何もできないと言われるとため息をせざるを得ない。

さらには人が増えてきていることにより、塚田駅は7時半にはホームがいっぱいとなり、一度で電車に乗りきれない状況です。開発後800世帯増えるので、さらにそれが加速する。解決するには、線路を高架にせざるを得ないと、公民館で市政懇談会をやっている時代から何回も言っています。それは相手のいることですので難しいですけれど、森のシティの子供たちの通学路の安全も高架にすれば相当解消されると我々は思っています。塚田駅にバリアフリーのエレベーターがない時代、我々は署名活動して、東武本社にまでお願いをしに行き、見事にエレベーターが設置されたこともあるので、必要があれば署名活動を進めて高架運動を展開してもいいかと思っています。

最後に、農業については、6次産業化※を進めていく行政の指導があれば、宅地転用は減ると思います。

※6次産業化 農林漁業者の生産した産物を活用し、新商品を開発、新たな販路の開拓（輸出も含む）等を行う取組。6次産業の6は1次産業（農林漁業）×2次産業（工業・製造）×3次産業（流通・販売）を意味している。

○市長

AGCテクノグラスの商業の関係は、先ほどの自治会の話も含めて、まちのあり方について伝えさせてもらいながら、丁寧にやっていきたいと思っています。

東武鉄道利用者が乗りきれない話は、初めて聞いたのですが、いつ頃からですか。

○団体

もう2、3年ぐらい前からになります。新船橋駅からも乗れません。

○市長

高架の話は市でどのぐらい財源負担できるかなど、充分検討してからでないと軽々にはお答えできませんがご要望は重々理解できます。

また、農業の6次産業化については、船橋は目立たないのですが行っています。地方都市がやっているような企業を巻き込んで何かをつくるという6次産業ではなく、若手の後継者が船橋産の原材料にこだわったジェラートをつくったり、個々に経営的に成り立つチャンネルを自分たちで開拓しています。例えば、お店とレシピをつくり、その店に自分たちがつくっているものを直接持っていったりしています。今の若い人たちは非常に意識が高いため、後継者の意欲から考えると、さっきの生産緑地もうまくリードができればもっと広げたいという農家もいるので、力を貸し借りしながらいろいろな形でやっていけるのではと思っています。

○団体

わかりました。ありがとうございます。

○市長

あまりいい答えになっていませんが、こうしてゆっくりお話しできる機会がなかなかないので、また、ぜひ機会をいただけたらと思います。

今日は本当にありがとうございました。

— 了 —